

ノーリフト通信 (第3号)

神奈川県立さがみ緑風園 リスクマネジメント委員会

こんにちは。今号は 2 ホームにおけるノーリフトの定着についてです。
現在 2 ホームでは、北側利用者 1 名のスライディングシートとボードを使用した、ノーリフトによる支援が定着しました。なぜ、どのようにして定着したのか結果論ではありますが紹介し、今後定着に向けて進めていくセクションの参考になればと思います。

理由その1 とにかく使ってみた！

まずはこれが大事だったと思います。スライディングシートが紹介された時、特に使わないという意見はありませんでした。

使うことで、初めてその道具の良さがわかります。もちろんマイナスの評価もできましたが、こうしたらいいんじゃない？というアイデアが出てきやすくなりました。このアイデアは使わないと出てこなかったと思います。

とにかく、適している、適していないの議論はせずまずは使ってみてください。新しい発見があり、アイデアがうまれやすくなると思います。

理由その2 使う環境を整えよう！

①



②



さて、いざ使うと決めたら次に行ったことは、使いたい時にその道具がすぐそこにある環境を作っていました。

よくあるのが、使うと決めたが肝心の道具が職員室で保管されており、利用者支援で利用者の居室に行って、「あっ！忘れてきた。ちょっと取りにいつてくる。」、「いいよ。時間ないし、2人でやっしてしまおう。」、「そうだね。」と、せっかく使うと決めても、道具が職員の導線上になく使い勝手が悪く結局使わない、ゆえに定着しないということになります。

そこで2ホームでは、道具の置き場所を使いやすいところに置くことにしました。

写真①は利用者の居室付近に道具を設置し、支援に入った職員がすぐ使えるようにしたものです。

車いすへの移乗のみならず、体交など使用頻度が非常に高い利用者は、写真②のように利用者居室内に設置している方もいらっしゃいます。

まとめ

- ①とにかく使ってみる
- ②使いやすい環境を作る。

とにかくこの2点がポイントだったと思います。使ってみることでメリット、デメリットが理解でき、使う道具の利便性も改めて知ることができます。そして、もし使用して不満があったとしても、不満部分をどうしたら解消できるか、という前向きなアイデアが生まれやすくなります。

そして何よりも使いやすい場所に、“それがある”環境を作っていくことが定着への近道ではないかと思ひます。

いかがでしたでしょうか？もしこれからということであれば
参考にしていただけると幸いです。

今年度のノーリフト通信は

- 1号 「神奈川らくらく介護宣言」
 - 2号 「4 ホームにおけるスライディングボード&シートの利用」
 - 3号 「2 ホームにおけるノーリフトの定着」
- 以上3点を取り上げました。
次年度も「ノーリフト通信」は発行いたします。
1年間ご覧いただきありがとうございました。

